

【 監査とコーチング 】

投稿

「改善すべきと監査人が思ったこと指摘して、何が悪いのですか？」

これは、数年前、監査部門に配属されて間もない後輩が、ある指摘をしようとして、被監査部門から実態に合わないと言われたため、先輩であった私に、その不満をぶつけた一言である。

この質問に、私は一瞬口籠ってしまったが、当時、あるセミナーでコーチングの話を聞いた直後だったこともあって、「監査もコーチングが重要だよ。こちらが問題点だと思っても、それを相手に押しつけてはダメで、気付かせるようにすることが必要なんだ。」とアドバイスした。

しかし、私自身はというと、被監査部門に問題点をどう伝えたら納得してもらえるのかに、いろいろと悩んでいたものの、実はそれまで、監査にコーチングの考えを取り入れるなどとは考えてもいなかった。

そこで早速、「監査におけるコーチング」に関して調べてみたところ、以下のとおり、一般にはその重要性についてあまり意識されているとは言えない状況であった。

- ①インターネットで検索しても、監査においてコーチングが重要であるという意見は、いくつかあるものの、数えるほどしかない。
- ②「監査におけるコーチング」について解説した書籍は、ほとんどない。

だが、最近では状況が変わってきた。監査の世界でもコーチングへの注目度が高まってきているようだ。

<事例1>

昨年10月に株式会社プロティビティジャパンが公表した『内部監査に必要な能力のサーベイ』^(注)において、向上の必要性が高い監査人のスキル・能力として、「コーチング/メンタリングスキル」が、「外部とのネットワーキング」に次いで第2位となり、前年調査の第10位から大幅に順位を上げている。その事情について、同サーベイでは「内部監査部門内での人材教育・育成や被監査部門に対する指導・改善などの局面で、必要性が高まっているもの」としている。

(注) 日本の内部監査担当役員、内部監査部門長、マネージャー、その他の専門職の計191人に対する調査結果。
http://www.protiviti.com/ja-JP/Downloads/IA_Survey_2010.pdf

<事例2>

「監査におけるコーチング」について解説した書籍は、ほとんどなかったが、ここにきてやっと出会えた。

昨年10月に発売された戸村智憲氏著『監査コミュニケーション技法“疑う流儀”－監査心理学による監査を通じた幸せづくり』(税務経理協会)が、それである。

被監査部門とどうコミュニケーションしていくのがよいのかについて、具体的実践例を示しながら様々な解説がなされており、非常に得るところの多い本である。

皆さんも、「コーチングを取り入れた監査＝被監査部門に問題点・改善策を気付かせる監査」について、ちょっと考えてみませんか？

(やじろべえ)
以上